小学校配布物から情報を得るために必要な語彙の探索

――使用頻度の高い語彙に注目して――

地　引　　愛

1．研究背景

経済、情報、移動手段の発達により、人々の国際的な移動はますます活発になり、現在、約２億1400万人の人々が生まれた国を離れて生活していると推測されている（UNFPA、2011）。日本においても、総人口の約1.6％である207万8,508人が外国人登録をしており（法務省、2011年）、その数は30年で３倍以上に膨れ上がった。外国人登録者数の増加とともに滞在パターンも、単身・短期滞在型から家族・長期滞在型に変化している。子どもを日本の中学校・小学校に通わせる家庭も増加し、公立小・中・高等学校、中等教育学校及び特別支援学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒数は、28,511人で、10年前に比べて１万人も増加している（文部科学省、2011）。

日本の小学校・中学校では子どもの親である保護者が、以下のような行動をすることが期待されており、特に小学校ではその傾向が強い。

（１）連絡ノートに子どもの様子や先生への返事を書く
（２）先生に口頭で子どもの様子を相談する
（３）保護者会に出席し、先生や保護者と意見交換する
（４）連絡網にそって、他の保護者に電話する
（５）学校からの配布物を読む

しかし、日本語や日本社会に不慣れな外国人保護者にとって上記の行動をすることは、かなりの困難が予想される。特に、（５）学校配布物を読むことは、外国人保護者の子育ての悩みとして報告されており（武田2007）、機会も多く、15歳以下の子どもを持つ外国人保護者ができるようになりたいと回答しているという報告もある（川崎2010）。

現在、日本語の教材や教科書は数多く存在するが、外国人保護者の配布物が読めないという悩みを解決することは難しい。学校配布物が読めるようになるための教材等が必要とされている。

2．目的

本研究では、外国人保護者が小学校配布物を読み、保護者として適切な行動ができるようになるための語彙リスト作成を目指し、その前段階として、小学校配布物使用語彙の分析と意識調査により、小学校配布物から情報を得るために必要な使用頻度の高い語彙を抽出することを目的とした。

本研究では、「高頻度の語彙を知ることが情報を得る上で有利である」という立場をとり、小学校配布物から情報を得るために必要な語彙を明らかにする上で、使用頻度の高い語彙に着目することとした。

学校配布物は学校で配布される配布物であり、発行元は、学校の他に地方自治体や地域の警察署などがあるが、本研究での「学校配布物」は小学校が発行した配布物を指す。また、「外国人保護者」とは、外国出身の保護者のことであり、日本国籍を有する場合も含む。これは、浜田（2010）に倣う。

3．先行研究

外国人保護者の背景としては、子育てにおける困難な経験をしており、病院でのコミュニケーションや役所や保育所、学校からの手紙や書類が読めないといった問題が大きなストレスであると報告されている（武田（2007））。また、外国人保護者は、生活密着場面では非保護者よりも高い行動能力を持つが、日本語学習を行う時間や参加が限られ、書き言葉を苦手としている（浜田（2010））。外国人保護者が学校配布物を理解する際には、学校配布物の複雑さに応じて、対応を変えるという対策とっている。一般的な行事のものであれば、自分より日本語能力が高い、同じ母語の人に説明してもらうが、押印や記入などを必要とする複雑な配布物の場合は、支援者に口頭で説明してもらいながらその場で記入するというストラテジーの変更を行っている（川崎（2010））。

外国人保護者を対象とした研究は、上記のような背景を明らかにする実態調査が盛んであるが、外国人保護者が必要な語彙に関する研究はほとんど行われていない。

4．小学校配布物ではどんな語彙が使われているのか

4－1　調査方法

本研究を行うにあたって、学校配布物で使われる語彙の解析には、東京の公立小学校、2校より提供の学校配布物を使用した。語彙解析の対象となった学校配布物は、主に以下の3つの種類に分けられる。

① 学校が1か月に1度配布している「学校便り」

② 各学年が1か月に1度配布している「学年便り」

③　特に決まった時期などがなく、臨時で配布される「各種お知らせ」

それぞれの主な内容として、①「学校便り」はその月の学校全体の行事予定やお知らせ、保護者ボランティアの募集、②「学年便り」は、その月の各学年の細かな行事予定や学習予定、行事に関わる持ち物など、③「各種お知らせ」は行事に関わる問診票や、生活や健康に関する注意、行事開催のお知らせなどが記載されている。①「学校便り」や②「学年便り」のような毎月１回配布されるものは、１年分すべて揃っているもののみを使用し、最終的に293件の学校配布物を対象に、データ化を行い、KH Coder[1] で語彙の解析、異なり語数・延べ語数を調べた。

KH Coder は、形態素解析システム茶筌[2] の形態素解析の結果をほぼそのまま利用しているため、学校配布物に使用される独特の語彙が解析されない場合があった。そのため、「学習指導要領（文部科学省、2008）」、「ブラジル人と小学校教師のための学校生活まるごとガイド（須藤とみゑ・池上摩希子、2003）」、小平英志（2007）を参考に、強制抽出語彙設定を行い、解析した。また、コロケーションが高い語彙同士を強制抽出語彙設定を行い、新たな語彙として解析した。曜日は「（月）」など、括弧に入れて表記されることが多いため、「（月）」としてひとつの語彙とした。日付等に使用される「８月」などの語彙は、「○月」のように、ひとつの語彙とした。

解析の結果、異なり語数4,987語、延べ語数110,130語であった。このうち固有名詞や記号等を排除し、異なり語数4,387語、延べ語数37,983語 を対象語彙とした。

４―２　日本語能力試験のレベル設定と小学校配布物使用語彙の関係

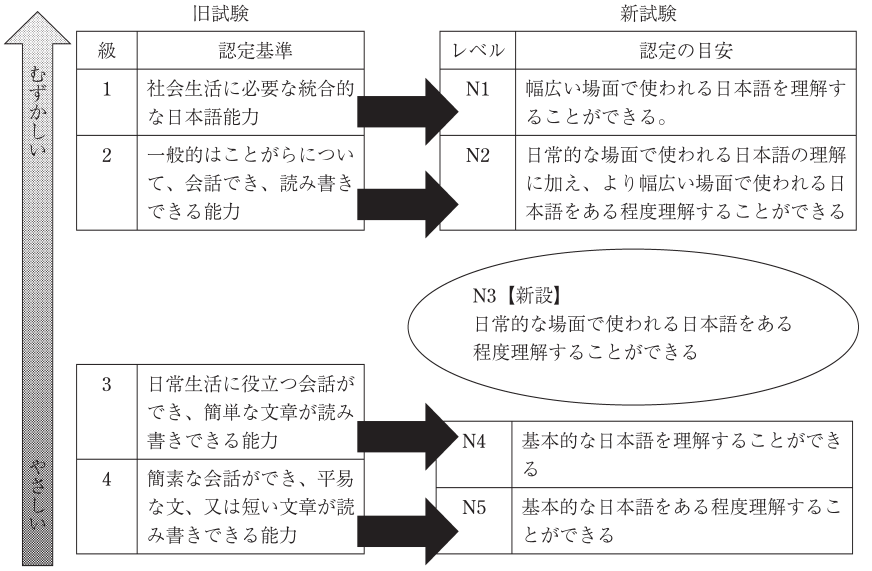
４―１で解析した学校配布物に使用される各語彙を旧日本語能力試験（JLPT）の出題基準語彙と照らし合わせ、どの級に該当するかを判定した。これにより、日本語能力試験のレベル設定と小学校配布物使用語彙の関係がある程度明らかになると考える。

本来ならば、現行の日本語能力試験の出題基準語彙で判定することが望ましいが、現行の日本語能力試験においては、出題基準語彙が公開されていないため、本研究では、旧日本語能力試験の基準語彙で判定を行った。新旧日本語能力試験の認定の目安は図１のようになっている。

４―２―１　調査方法

解析した語彙が旧日本語能力試験の出題基準語彙のどの級の該当語彙であるかという判定には、日本語読解システムリーディングチュウ太[3] を使用した。どの級にも該当しなかった語彙は「級外」とした。ひとつの語彙に、該当する級が２つ以上含まれる場合は、難易度が高いほうを優先し、判定した。例えば、「保護者」の場合、「保護」は１級、「者」は２級に該当したが、難易度が高い１級の語彙と判定した。

図１　新旧日本語能力試験認定の目安（国際交流基金・日本国際協力支援基金、2010）一部省略



４―２―２　調査結果

調査の結果、異なり語数でみると、４級474語（10.8％）、３級464語（10.6％）、２級1,298語（29.6％）、１級578語（13.2％）、どの級にも該当しない語彙（級外）は1,573語（35.9％）であり、３級までの重なりは約20％程度ということがわかった。（図２）

延べ語数では、４級11,989語（31.6％）、３級5,154語（13.6％）、２級10,854（28.6％）、１級3,477（9.2％）、どの級にも該当しない語彙（級外）は6,509語（17.1％）であり、３級までの重なりは約45％程度ということがわかった。（図３）

３級までの重なりが異なり語数では約20％であったが、延べ語数では約45％と約25％増加するということがわかった。理由としては、４級出題基準語彙である「する」などの基本動詞が多く使用されているからだと考えられる。

４―３　小学校配布物使用語彙で使用頻度の高い語彙はなにか

４―１で解析した学校配布物に使用される語彙の中で、使用頻度の高い語彙を明らかにする。

活用しない品詞である「名詞[4]」から使用頻度が高い順に150個の語彙を抽出した。抽出した150個の語彙は「頻出語彙150語」とし、異なり語数は150語、延べ語数は12,408

図２　日本語能力試験のレベル設定と学校配布物使用語彙の関係（異なり語数）

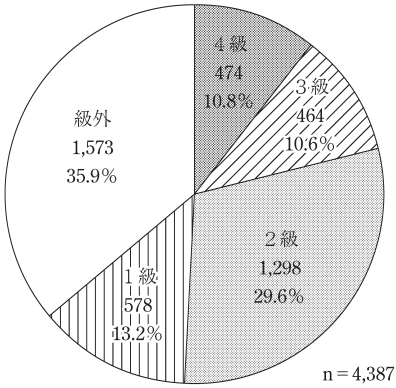
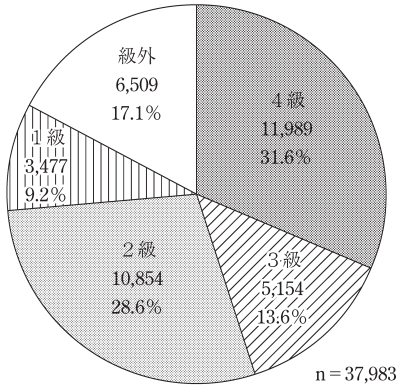


図３　日本語能力試験のレベル設定と学校配布物使用語彙の関係（延べ語数）



語であった。４―１で解析した「名詞」の異なり語数は2,927語、延べ語数は25,577語であるため、頻出語彙150語の異なり語数は、「名詞」の異なり語数の5.1％であるのに対し、頻出語彙150語の延べ語数は、「名詞」の延べ語数の48.5％であった。

頻出語彙150語を４―２と同じように各語彙を旧日本語能力試験（JLPT）の出題基準語彙と照らし合わせ、どの級に該当するかを判定した。

図４　日本語能力試験のレベル設定と頻出語彙150語の関係（異なり語数）

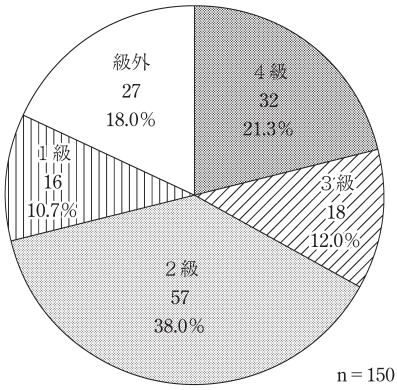
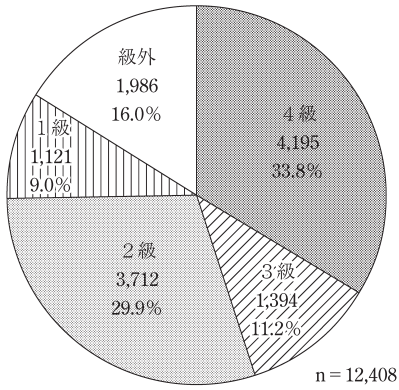


図５　日本語能力試験のレベル設定と頻出語彙150語の関係（延べ語数）



(6)

調査の結果、異なり語数では 4 級32語（21.3%）、3 級18語（12.0%）、2 級57語（38.0%）、1 級16語（10.7%）、どの級にも該当しない語彙（級外）は27語（18.0%）であり、3 級までの重なりは約33%程度であった。（図 4 ）

延べ語数では、4 級4,195語（33.8%）、3 級1,394語（11.2%）、2 級3,712語（29.9%）、1 級1,121語（9.0%）、どの級にも該当しない語彙（級外）は1,986語（16.0%）であり、3 級までの重なりは約44%程度であった。（図 5 ）延べ語数の数値は 4 ― 2 で解析した語彙全体とあまり変わらないことがわかった。

「頻出語彙150語」の語彙とその詳細は表1の通りである。表 1 には、旧日本語能力試験の出題基準語彙別に語彙とその出現回数を頻出順に記載した。延べ語数が一番多い語は「○月」の691語であり、一番少ない語は「夏季」の32語である。

5．小学校配布物から情報を得るために必要語彙だと思われている語彙はなにか

5 ― 1　意識調査

5 ― 1 ― 1　目的と方法

学校配布物を読む際に目を留める語彙を必要語彙として考え、学校配布物を読む際に、目にする機会が多い 4 ― 3 で抽出した頻出語彙150語に関して、読むことの必要性を問う質問紙調査を行った。対象者は、学校配布物の読み手である子どもを日本の公立小学校に通わせている、あるいは通わせたことのある在住外国（以下（ｉ）外国人保護者)、学校配布物の読み手である子どもを日本の公立小学校に通わせている、あるいは通わせたことのある日本人（以下（ii）日本人保護者)、学校配布物作成者である日本の公立小学校教員（以下、(iii）小学校教師）の 3 者あった。

質問内容は（ｉ）外国人保護者、(ii）日本人保護者、(iii）小学校教師、それぞれ合わせて調査内容を理解しやすいよう以下のようにした。

（ｉ）外国人保護者は「学校配布物を読む際に、大切だと思う語彙」を 4 段階（大切でない「 1 」、とても大切だ「 4 」）で判定する質問紙とした。質問紙は、頻出語彙150語をランダムに並べ、ふりがなをつけた上で母語で理解できるように翻訳した。用意した言語は、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、英語、タイ語、ベトナム語、タガログ語（一部)、ミャンマー語、やさしい日本語の10種類である。

(ii）日本人保護者は「学校配布物を読む際に、注目する語彙」を 4 段階（全く注目しない、「 1 」非常に注目する「 4 」）で判定する質問紙とした。質問紙には、頻出語彙150語をランダムに並べた。

(iii）小学校教師は「学校配布物を読む際に、保護者に注目してほしい語彙」を 4 段

表１　頻出語彙150語　語彙リスト（出題基準語彙別）

頻出語彙150語　（異なり語数150語、延べ語数12,408）
４級（異なり語数32語、延べ語数4,195語）
○月 691　学校 346　お願い 296　○時間授業 226　授業 210　子供 193　（金）191 （火）184　（木）162　子ども 156　（月）144　（水）135　家庭 126　時間 106　（土）98 教室 93　先生 85　自分 84　音楽 68　練習 67　今 57　電話 53　午後 52　夏休み 46 多く 46　たくさん 44　今年 43　（日）41　言葉 40　前 39　週間 37　午前 36
３級（異なり語数18語、延べ語数1,394語）
小学校 222　校長 152　場合 138　生活 130　教育 105　予定 75　連絡 68　曜 65　研究 58 場所 55　運動 51　関係 45　気持ち 42　相談 40　注意 39　準備 38　計画 37　会議 34
２級（異なり語数57語、延べ語数3,712語）
学習 191　児童 186　指導 172　学期 169　協力 168　学年 152　活動 135　実施 121 算数 112　学級 107　地域 105　理解 95　参加 88　内容 74　集会 67　行事 62　体育 60 当日 59　鑑賞 56　発表 51　行事予定 51　委員 49　年間 49　使用 49　確認 48 クラブ活動 48　国語 46　学力 45　調査 45　道徳 44　測定 43　今後 42　校庭 41 作品 41　地区 41　日時 41　終了 40　結果 39　期間 38　表現 38　全体 38　延期 37 解決 37　開始 37　活用 37　検査 37　成長 37　社会科見学 37　状況 36　方々 36 感謝 36　学習指導要領 34　クラブ 33　情報 33　様子 33　読書 33　水泳指導 33
１級（異なり語数16語、延べ語数1,121語）
保護者 225　保護者会 141　給食 106　登校 101　学級閉鎖 80　授業公開 60　避難訓練 55 配布 52　課題 42　開催 40　公開 38　体験 38　体力 37　充実 37　向上 35　感染 34
級外（異なり語数27語、延べ語数1,986語）
平成 197　特別時程 169　皆様 148　運動会 139　お知らせ 136　市立 129　下校 92 担任 82　本校 79　児童朝会 71　ＰＴＡ 66　始業式 59　教諭 54　図工 54　今年度 51 支援 48　記 46　体育館 46　新型インフルエンザ 41　インフルエンザ 39　検診 38　参観 35 後日 35　冬休み 34　ボランティア 33　展覧 33　夏季 32

階（注目しなくてもよい「１」、非常に注目してほしい「４」）で判定する質問紙とした。質問紙には、頻出語彙150語をランダムに並べた。

５－１－２　回答者の背景

本調査は、外国人保護者31名、日本人保護者30名、小学校教師27名の計88名から回答を得た。それぞれの回答者の詳細は以下の通りである。回答者は（ｉ）－（iii）別に記載する。

（ｉ）外国人保護者31名

①国籍　中国11名、ブラジル４名、フィリピン４名、ミャンマー４名、韓国３名、

(8)

台湾１名、カザフスタン１名、バングラデシュ１名、ジャマイカ１名、日本１名

②母語　中国語13名、ポルトガル語４名、タガログ語４名、ミャンマー語４名、韓国語３名、ロシア語１名、ベンガル語１名、英語１名

③性別　男性５名、女性26名

④日本滞在期間　１年未満２名、１年～３年未満５名、３年～５年未満２名、５年～10年未満６名、10年以上16名

⑤日本語学習歴　１年未満15名、１年～３年未満４名、３年～５年未満４名、５年～10年未満４名、10年以上４名

⑥日本語能力試験取得級　取得級なし26名、１級３名、N21名、N31名

（ii）日本人保護者30名

①性別　男性３名、女性27名

（iii）小学校教師27名

①性別　男性10名、女性17名

②教師歴　５年未満７名、５年～10年未満３名、10年～15年未満２名、15年～20年未満４名、20年以上11名

③外国人保護者と関わった経験　ある22名、なし５名

５－２　外国人保護者・日本人保護者・小学校教師で認識の違いはあるのか

（ｉ）外国人保護者・（ii）日本人保護者・（iii）小学校教師それぞれの回答の傾向をみるために、（ｉ）外国人保護者・（ii）日本人保護者・（iii）小学校教師別に必要度１～４に回答した個数を数えた。

（ｉ）外国人保護者（図６）は必要度１（大切でない）が1,149（24.7%）、必要度２が651（14.0%）必要度３が963（20.7%）、必要度４（とても大切だ）が1,887（40.6%）というように、必要度１（大切ではない）と必要度４（とても大切だ）を選ぶ傾向が強いということがわかる。これはほとんどの語彙を必要度４（とても大切だ）に判定する回答者と、必要度１（大切でない）に判定する回答者がおり、その結果、必要度１と４に偏った分布がなされたと思われる。また、語彙別にみても回答者によって回答が違い、外国人保護者が必要だと考えている語彙の傾向をみることはできなかった。

一方、（ii）日本人保護者（図７）は必要度１（全く注目しない）が822（18.3%）、必要度２が1,725（38.3%）必要度３が1,397（31.0%）、必要度４（非常に注目する）が556（12.4%）であり、（iii）小学校教師（図８）は必要度１（注目しなくてもよい）が155（3.8%）、必要度２が1,442（35.6%）必要度３が1,385（34.2%）、必要度４（非常に注目してほしい）が1,068（26.4%）であり、（ii）日本人保護者・（iii）小学校教師とも

に、必要度２・３を多く選ぶ傾向があることがわかった。また、語彙別にみると（ii）日本人保護者・(iii) 小学校教師が必要と考えている語彙には、ある程度の傾向が見えた。

次に、それぞれの語彙別に、（ｉ）外国人保護者・（ii）日本人保護者・(iii) 小学校教師の必要度選択の分布の違いをみた。するとほとんどの語彙で、（ｉ）外国人保護者と（ii）日本人保護者・(iii) 小学校教師の間では、必要度の分布の違いがあった。特に、必要度の分布の違いが目立った語彙の一部を図９にまとめた。図９は語彙ごとに、（ｉ）外国人保護者・（ii）日本人保護者・(iii) 小学校教師別に、必要度１－４を選んだ人数を記載した。（ｉ）外国人保護者・（ii）日本人保護者・(iii) 小学校教師の回答者はそれぞれ31名、30名、27名と人数が異なるため、横軸は、全人数100％で表記した。

図６　（ｉ）外国人保護者　必要度選択数

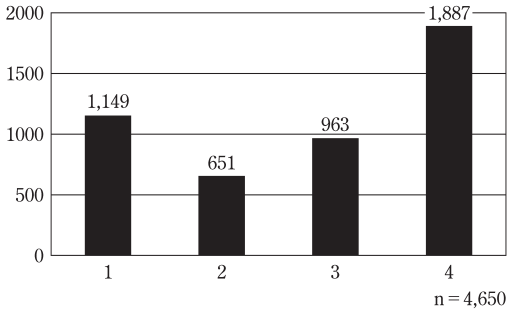


図７　（ii）日本人保護者　必要度選択数

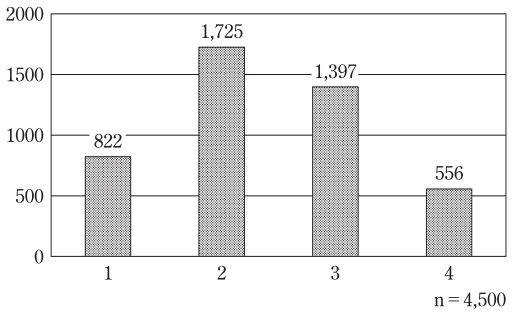


図８　（iii）小学校教師　必要度選択数

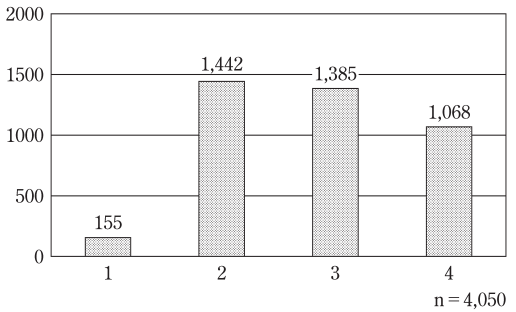
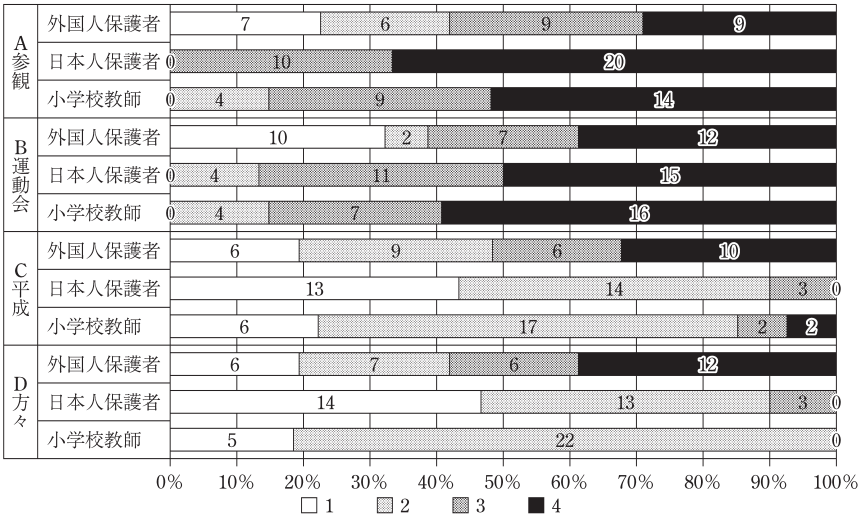


図９をみると、「A参観」は、日本人保護者は必要度１（全く注目しない）・必要度2２を選択した回答者はおらず、必要度３が10名（33.3％）、必要度４（非常に注目する）が20名（66.7％）であり、日本人保護者が「参観」を小学校配布物から情報を得るために必要な語彙として考えていることが

図９　必要度の分布の違いが目立った語彙（一部）



わかる。同じように、小学校教師も必要度３を選択した人が９名（33.3％）、必要度４（非常に注目してほしい）と回答した人が14名（51.9％）であり、小学校教師も、「参観」を小学校配布物から情報を得るために必要な語彙として考えていることがわかる。しかし、外国人保護者は、必要度１（大切でない）が７名（22.6％）、必要度２が６名（19.3％）必要度３が９名（29.0％）、必要度４（とても大切だ）が９名（29.0％）であり、外国人保護者が「参観」を小学校配布物から情報を得るために必要な語彙として考えているとは言い難いことがわかる。「B. 運動会」も、（ii）日本人保護者・(iii) 小学校教師は、小学校配布物から情報を得るために必要な語彙と考えられているといえるが、（ｉ）外国人保護者にとって必要語彙であるとは言い難い。

一方で、「C. 平成」や「D. 方々」は、（ｉ）外国人保護者が必要度の高い４を選択している回答者が多いが、（ii）日本人保護者・(iii) 小学校教師は、必要度４を選択している回答者が極端に少ない。これは、（ii）日本人保護者・(iii) 小学校教師は、「C. 平成」や「D. 方々」を小学校配布物から情報を得るために必要な語彙でないと考えているからだと推測できる。

このような結果から、（ｉ）外国人保護者と（ii）日本人保護者・(iii) 小学校教師の間では、必要な語彙について明らかに異なった認識があるということが推測される。

必要語彙の認識の差には、「母語には概念がない」、「母語と同じ語彙であっても、日

本と習慣が違う」というような理由があると考えられる。例えば、日本人保護者が「参観」という語彙から連想するものは、「保護者が学校の行事に参加する必要があること」、「特別な予定がない限り必ず出席するもの」というようなことが容易に想像できるが、外国人保護者の場合、たとえ、語彙が理解できても、「特別な予定がない限り必ず出席するもの」という習慣的要素が連想されるとは考えにくく、どのような行動を選択する必要があるのかという判断を正確に行うことは容易ではないという理由が憶測にすぎないが、挙げられるだろう。

しかし、外国人保護者は、ほとんどの語彙を必要度１または４というような偏った選択をする回答者が多くみられ、回答者の傾向に特殊性があった。また、回答者の人数が少ないという問題点もあるため、本調査の結果のみで外国人保護者と日本人保護者・小学校教師の間での認識の差があることを述べるのは難しい。

５―３　小学校配布物から情報を得るために必要な語彙の探索

頻出語彙150語それぞれを（ｉ）-（iii）別に必要と考える人数の割合でＡ～Ｅの５段階で分類し、それぞれがどの語彙を必要と考えているのかを調べた。

（ｉ）-（iii）別全人数の中で必要度３・４（とても大切だ、非常に注目する、非常に注目してほしい）と回答した人数の割合を算出し、人数の割合でＡ～Ｅの５段階で分類した。Ａ～ＥはＡ（100-81％）、Ｂ（80-61％）、Ｃ（60-41％）、Ｄ（40-21％）、Ｅ（20-０％）と20％ごとに分け、Ａはその属性が必要と考えている語彙であり、Ｅはその属性がまったく必要と考えていない語彙とした。図９の「Ｂ 運動会」を例にすると、（ii）日本人保護者全30名のうち、「運動会」を必要度１（全く注目しない）と回答した人が０名、必要度２と回答した人が４名、必要度３と回答した人が11名、必要度４（非常に注目する）と回答した人が15名であった。このうち、必要度３・４と回答した人数は日本人保護者全30名のうち26名で86.7％である。この数値はランクＡに相当し、日本人保護者は「運動会」という語彙を学校配布物から情報を得る際に必要な語彙として高く評価していると考える。以上の方法で、頻出語彙150語を（ｉ）外国人保護者・（ii）日本人保護者・（iii）小学校教師別にランクA-Eに分類した。

分類の結果、（ｉ）外国人保護者はランクＡ：０語、Ｂ：97語、Ｃ：53語、Ｄ：０語、Ｅ：０語であった。（ii）日本人保護者はＡ：14語、Ｂ：19語、Ｃ：38語、Ｄ：46語、Ｅ：33語であり、（iii）小学校教師はＡ：10語、Ｂ：46語、Ｃ：57語、Ｄ：32語、Ｅ：５語であった。

５―２で記述したように、（ｉ）外国人保護者はどの語彙も必要度１（大切でない）を選択する回答者と、必要度４（とても大切だ）を選択する回答者がおり、必要度１と４に偏った分布がなされた。ほとんどの回答者が必要度１、または、必要度４と判定す

ることで、ランクはAやEになるが、どの語彙もどちらか一方の必要度に傾くことはなく、外国人保護者はどの語彙もランクB～Cに分類された。このため、実際に外国人保護者が必要と考える語彙の傾向がでなかったといえる。一方、日本人保護者と小学校教師は、ランクA-Eに分布した。

ランクA・Bに分類された語彙は、その属性が学校配布物から情報を得る際に必要な語彙として高く評価している語彙と考えた。必要語彙の傾向が見えなかった（i）外国人保護者を除いた（ii）日本人保護者・（iii）小学校教師が共通してランクAまたはBに分類された語彙を、「小学校配布物から情報を得るために必要な語彙」として抽出した。（ii）日本人保護者と（iii）小学校教師が共通して、ランクAまたはBとなった語彙は以下の32語であった。（表2）

表2　小学校配布物から情報を得るために必要な語彙　32語（出題基準語彙別）

小学校配布物から情報を得るために必要な語彙　32語				
4級　3語	3級　2語	2級　10語	1級　8語	級外　9語
○時間授業 お願い 子ども	注意 連絡	**行事予定** **社会科見学** **水泳指導** 調査 算数 学習 **日時** 延期 **行事** 検査	**保護者会** **授業公開** **避難訓練** 保護者 学級閉鎖 感染 課題 **登校**	**特別時程** **始業式** **運動会** お知らせ 新型インフルエンザ インフルエンザ **参観** 検診 担任

この32語のうち、ゴシック体で表記した14語は、学校配布物の中でも、①「学校便り」や②「学年便り」の行事予定の欄でよくみかける語彙であり、日本人保護者は行事予定に注意を払っているということ、小学校教師も行事予定を気にかけてほしいと願っていることがわかる。また、子どもの健康に関わる「検査」、「感染」、「検診」、「インフルエンザ」等の語彙が多いこともわかる。

5－4　必要語彙32語でどんな情報が得られるか

5－3で抽出した必要語彙32語を知ることで、実際に学校配布物から情報を得る際に外国人保護者の目にはどのように映るのか、視覚的に表したものが図10と図11である。

図10　学年便り（一部）
3級以下の語彙

楽しみになさってください。

・学校説明会
・PTA [redacted]
・　　お休み
・お弁当の用意を
お願いします。

5月[redacted]予定

月	火	水	木	金	土
3 [redacted]	4 みどりの日	5 こどもの日	6 [redacted] ④ [redacted] (2[redacted])	7 [redacted] ⑤	8 授業[redacted] (4・5[redacted]時) 14:20[redacted]
10 授業[redacted] [redacted]日	11 [redacted] [redacted] ⑥ [redacted] sc	12	13	14 [redacted] 4時間	15
17 [redacted]	18 [redacted] [redacted] sc	19	20 [redacted]	21 ぎょう[redacted] (2次)	22
24 [redacted] [redacted]	25 [redacted]授業 (2[redacted]のみ 5時間授業) [redacted]sc	26 [redacted]	27	28	29
31 [redacted] 4時間授業 [redacted]週間始					

SC：スクールカウンセラー

◎[redacted]の[redacted]

6月7日(月)　　公園へ行きます。お弁当の[redacted]をお願いします。[redacted]は、[redacted]をご覧ください。[redacted]の[redacted]、150円（交通[redacted]100円＋[redacted]50円）を[redacted]します。[redacted]を[redacted]しますので、5月14日（金）までにお子さんに持たせていただくようお願いいたします。

◎[redacted]の[redacted]

6月9日(水)より水泳[redacted]が始まります。[redacted]や帽子は[redacted]と特に[redacted]ありません。[redacted]までに一度ご家庭でお子さんに[redacted]いただき、[redacted]などを[redacted]いただければと思います。[redacted]はまた[redacted]いたします。

図11　学年便り（一部）
3級以下の語彙＋必要語彙32語

楽しみになさってください。

・学校説明会
・PTA [redacted]
・　　お休み
・お弁当の用意を
お願いします。

5月行事予定

月	火	水	木	金	土
3 [redacted]	4 みどりの日	5 こどもの日	6 特別時程 [redacted] ④ [redacted]検査 (2[redacted])	7 特別時程 [redacted] ⑤	8 授業公開 (4・5[redacted]時) 14:20[redacted]
10 授業公開 [redacted]日	11 特別時程 [redacted] ⑥ [redacted]検査 sc	12	13	14 特別時程4時間	15
17 [redacted]	18 避難訓練 [redacted]検診 sc	19	20 [redacted]検査	21 ぎょう[redacted]検査 (2次)	22
24 [redacted] [redacted]	25 [redacted]授業 (2[redacted]のみ 5時間授業) [redacted]検診sc	26 特別時程	27	28	29
31 [redacted] 4時間授業 [redacted]週間始					

SC：スクールカウンセラー

◎[redacted]のお知らせ

6月7日(月)　　公園へ行きます。お弁当の[redacted]をお願いします。[redacted]は、[redacted]をご覧ください。[redacted]の[redacted]、150円（交通[redacted]100円＋[redacted]50円）を[redacted]します。[redacted]を[redacted]しますので、5月14日（金）までにお子さんに持たせていただくようお願いいたします。

◎[redacted]のお知らせ

6月9日(水)より水泳指導が始まります。[redacted]や帽子は[redacted]と特に[redacted]ありません。[redacted]までに一度ご家庭でお子さんに[redacted]いただき、[redacted]などを[redacted]いただければと思います。[redacted]はまた[redacted]お知らせいたします。

(14)

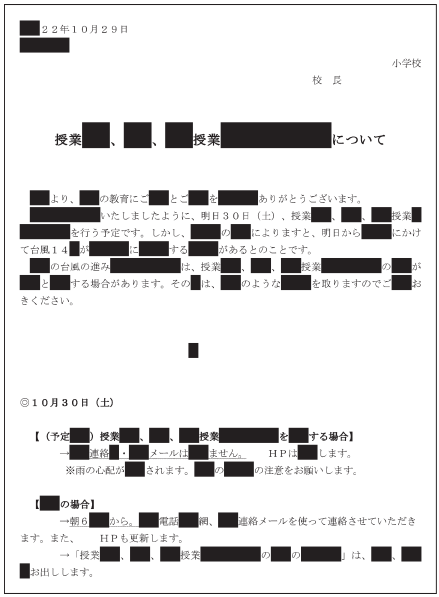
図10と図11は４―１で使用した学校配布物で使われる語彙を解析するための学校配布物②「学年便り」の一部である。日本語読解システムリーディングチュウ太で全文を日本語能力試験の何級の語彙であるか判定し、外国人保護者が旧日本語能力試験３級レベルの日本語能力があることを想定した上で、３級以上の語彙は黒で塗りつぶした。(図10)。外国人保護者が仮に旧日本語能力試験３級レベルの語彙を知っている場合、外国人保護者は３級以下の語彙がわかり、図10のように見えているということになる。本研究では語彙に焦点をあてているため、級の判定は語彙のみで行い、漢字表記や文法の点は考慮しなかった。

図11は図10に必要語彙32語がわかる状態にしたものである。５―３で抽出した必要語彙32語を知ると、外国人保護者の目には、図11のように映る。

図10と図11を比べると、必要語彙32語を知ることで、５月行事予定の欄で６日、７日が特別時程であることや、20日、21日に何かしらの検査があることがわかるようになる。また、手紙の下の部分が何かしらのお知らせ欄であることがわかるようになり、必要語彙32語がわかることでそれなりの効果があることがわかる。

一方で、図12と図13は４―１で使用した学校配布物で使われる語彙を解析するための

図12　各種お知らせ（一部）
　　３級以下の語彙


２２年１０月２９日

小学校
校　長

授業、、授業について

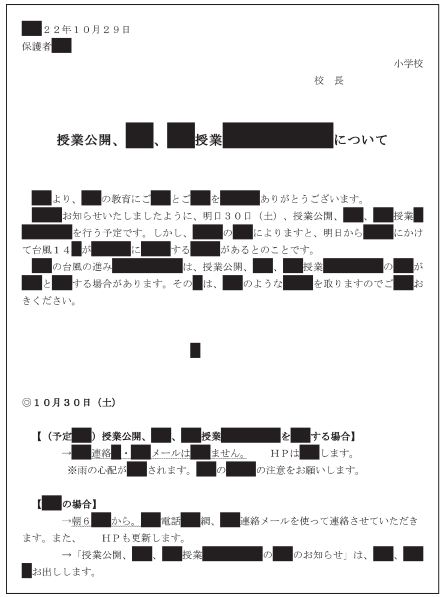
より、の教育にごとご をありがとうございます。
いたしましたように、明日３０日（土）、授業、、授業
を行う予定です。しかし、の によりますと、明日から にかけて台風１４が に する があるとのことです。
の台風の進みは、授業、、、授業 の が と する場合があります。その は、 のような を取りますのでご おきください。

◎１０月３０日（土）

【（予定）授業、、、授業 を する場合】
→ 連絡・ メールは ません。　ＨＰは します。
※雨の心配が されます。 の の注意をお願いします。

【 の場合】
→朝６ から。 電話 綱、 連絡メールを使って連絡させていただきます。また、　ＨＰも更新します。
→「授業、、、授業 の の 」は、、 お出しします。

図13　各種お知らせ（一部）
　　３級以下の語彙＋必要語彙32語


２２年１０月２９日
保護者

小学校
校　長

授業公開、、授業について

より、の教育にごとご をありがとうございます。
お知らせいたしましたように、明日３０日（土）、授業公開、、授業
を行う予定です。しかし、の によりますと、明日から にかけて台風１４が に する があるとのことです。
の台風の進みは、授業公開、、、授業 の が と する場合があります。その は、 のような を取りますのでご おきください。

◎１０月３０日（土）

【（予定）授業公開、、、授業 を する場合】
→ 連絡・ メールは ません。　ＨＰは します。
※雨の心配が されます。 の の注意をお願いします。

【 の場合】
→暁６ から。 電話 綱、 連絡メールを使って連絡させていただきます。また、　ＨＰも更新します。
→「授業公開、、、授業 の のお知らせ」は、、 お出しします。

学校配布物③「各種お知らせ」の一部である。図10・図11と同様に、日本語読解システムリーディングチュウ太で全文を日本語能力試験の何級の語彙であるか判定し、外国人保護者が旧日本語能力試験３級レベルの日本語能力があることを想定した上で、３級以上の語彙は黒で塗りつぶした。(図12)。本研究では語彙に焦点をあてているため、級の判定は語彙のみで行い、漢字表記や文法の点は考慮しなかった。

外国人保護者が仮に旧日本語能力試験３級レベルの語彙を知っている場合、外国人保護者の目には図12のように見えているということになる。

図13は図12に必要語彙32語がわかる状態にしたものである。５―３で抽出した必要語彙32語を知ると、外国人保護者の目には、図13のように映る。

この手紙は授業公開、道徳授業が実施される予定であるが、当日の台風の状況で、実施されるか否かが決まるといった内容である。図12と図13を比べると、必要語彙32語の「授業公開」のみがわかるようになっただけで、「実施」、「休校」など手紙のキーワードとなる語彙をみることができない。

本研究で抽出した必要語彙は学校配布物に使用される語彙の中から頻出する150語をとりだし、意識調査を行って抽出したため、使用頻度が少ない語彙は必要語彙になることはない。しかしながら、使用頻度が少ない語彙でも、外国人保護者が小学校配布物から情報を得るために必要な語彙はあるであろう。使用頻度の少ない語彙から「小学校配布物から情報を得るために必要な語彙」を抽出することが今後の課題である。

６．まとめと今後の課題

６―１　まとめ

本研究では、外国人保護者が小学校配布物を読み、保護者として適切な行動ができるようになるための語彙リスト作成を目指し、その前段階として、小学校配布物使用語彙の分析と意識調査により、小学校配布物から情報を得るために必要な使用頻度の高い語彙を抽出することを目的とした。

小学校配布物使用語彙の分析により、学校配布物には異なり語数4,387語、延べ語数37,983語が使用されていることがわかった。日本語能力試験との関係をみると、３級までの重なりが異なり語数では約20％であったが、延べ語数では約45％と約25％増加するということがわかった。さらに、頻度の高い150語の名詞の抽出を行った。

抽出した150語彙を使用し、外国人保護者、日本人保護者、小学校教師を対象に読むことの必要性を問う質問紙調査を行った。調査の結果、外国人保護者と日本人保護者・小学校教師の間には、認識の違いがあることがわかった。また、日本人保護者と小学校教師の結果から、小学校配布物から情報を得るために必要な語彙を32語抽出した。

6－2　今後の課題

本研究では、外国人保護者が小学校配布物を読み、保護者として適切な行動ができるようになるための語彙リスト作成を目指し、その前段階として、小学校配布物使用語彙の分析と意識調査により、小学校配布物から情報を得るために必要な使用頻度の高い語彙を抽出することを目的とした。調査の結果、32語の必要語彙を抽出した。しかし、これらの語彙は使用頻度が高い語彙であり、５－４で挙げたように、小学校配布物から情報を得るために必要な語彙を使用頻度の少ない語彙から明らかにすることが今後の課題である。

また、本研究は外国人保護者がいかにして小学校配布物を読むかという視点であったが、学校配布物でしか使用されない語彙もあり、外国人保護者にとって内容把握することが難しいことは明らかである。小学校配布物の作成者である学校・小学校教師は、より平易な語彙を使用することが望まれる。語彙の書き替えや「やさしい日本語」の使用など、小学校配布物をいかにして外国人保護者に読みやすいものにするかという視点からの研究も必要である。

注

1　日本学術振興会（大阪大学）の樋口耕一氏によって制作されたテキストマイニング用ソフトウェア。形態素解析ソフト「茶筅」の解析情報に基づくデータ抽出機能が組み込まれている。KH Coder の詳細は、〈http://khc.sourceforge.net〉参照。

2　奈良先端科学技術大学院大学松本研究室で開発された形態素解析ツールのひとつ。詳細は、〈http://chasen-legacy.sourceforge.jp〉参照。

3　東京国際大学の川村よし子氏、甲南大学の北村達也氏によって作成された日本語読解学習システム。日本語読解システムリーディングチュウ太の詳細は、〈http://language.tiu.ac.jp/tools.html〉参照。

4　KH Coder を基に「名詞」を判定したため、本来名詞といえないものが含まれている可能性もある。

参考文献

（１）法務省入国管理局（2012）「平成23年末現在における外国人登録者統計について」http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00021.html（2012年９月12日）

（２）文部科学省（2011）「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入れ状況等に関する調査（平成22年度）」

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/08/__icsFiles/afieldfile/2011/08/16/1309275.pdf（2012年 9 月12日）

（3）武田真由美（2007）「A 県における在日外国人の子育てニーズに関する探索的研究―在日外国人保護者、行政担当者、支援者へのインタビュー調査より―」『関西学院大学社会学部紀要』103号、関西学院大学、115-127

（4）川崎直子（2010）「義務教育の接触場面における日本語使用の実態と学習ニーズについての考察―共生化の可能性に向けて―」金田智子（研究代表）『「生活のための日本語」に関する基盤的研究―段階的発達の支援をめざして―〈中間報告〉』国立国語研究所日本語教育研究・情報センター、115-125

（5）浜田麻里（2010）「調査結果から見える外国人保護者の生活と日本語―子どもがいる回答者の分析から―」金田智子（研究代表）『「生活のための日本語」に関する基盤的研究―段階的発達の支援をめざして―〈中間報告〉』国立国語研究所日本語教育研究・情報センター、139-149

（6）文部科学省（2008）「小学校学習指導要領解説」
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2009/06/16/1234931_014.pdf（2011年11月29日）

（7）須藤とみゑ、池上摩希子（2003）『ブラジル人と小学校教師のための学校生活まるごとガイド』スリーエーネットワーク

（8）小平英志（2007）「幼稚園で求められる情報機器の操作スキル―作成された配布物のスキル分析から―」『名古屋柳城短期大学研究紀要』第29号名古屋柳城短期大学 239-246

（9）日本語能力試験「認定の目安　新旧対照」
http://www.jlpt.jp/about/pdf/comparison01.pdf（2012年 1 月 9 日）

(10) UNFPA（2011）World Population Prospects *the* 2010 *Revision* United Nations